

2022年7月30日（土）

老球の細道681号

7月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

4回目のワクチン接種を終え、コロナにはもうラクチンだなど思っていたら、今度は「第7波」だという。感染者数は世界陸上ではないが、毎日のように新記録ラッシュである。そして今度は「サル痘」、かつての「エイズ」パニックの再来か。

映画「シークレットサービス」のようなシーンがこの日本でも起こるとは思いもしなかった。襲撃の原因は残念な家庭事情にあるが、犯人が中学時代バスケットボール選手だったことも私にとっては残念だった。やはり何をおいても第一は家庭、家族である。そのことを胸に秘めながら、孫たちの夏休み、虫捕りに勤しんでいる。必要なのは熱意、集中力。

1・テレビ、映画から

◆「大丈夫、泣き虫だった龍馬だって龍になる」〈NHK・知恵泉〉：龍馬の姉さんが晩年語った言葉である。龍馬は幼少の頃、泣き虫、弱虫であったが長身のお姉さんに剣術などで鍛えられ、その後天下を動かす龍となった。人間はいつ、どこでブレイクスルーするかわからない。本人の努力もさることながら、そばで信じて応援してくれる人材が必要である。

2・読書から

◆「人多ければ天に勝つも亦何ぞ久しからん。請う他年天定まるの時を俟（ま）て」〈滝沢洋之著『吉田松陰 東北紀行』歴史春秋社〉：喜女（現喜高）時代の同僚が書いた本である。久しぶりに読み返した。松陰が会津などを旅し、途中の盛岡で友人の牢獄での自死を知り読んだ漢詩の一節である。「悪人が多く勢いの盛んな時は、一時は天理に勝つが、やがて天運が巡ってくると悪人は滅ぶ」と言う意味である。ロシアのウクライナ侵攻を思った。

3・新聞、パンフレット等から

◆「才能はないとすぐに分かりましたけど、努力することはできたんです」〈朝日：折々のことば：永瀬拓矢〉：天才がひしめく将棋の世界で、自信をなくす子どもたちに才能より努力が大切だと伝える将棋棋士がいる。最も大切なことは好きであること、愛していること。であれば、才能がなくても努力は続けられる。最も重要な才能は「努力を続けられる」こと。

◆「自由と民主主義を壊すのはテロリストではなく、テロを受けた側の人々だということだ」〈朝日：政治と暴力〉：要人暗殺はいつの時代でも歴史は繰り返す。「自由と民主主義が破壊されるのはテロが起きた時ではなく、テロを見て人々がそれらに制限をかけたときです。過剰反応しないで自由で民主的な社会を変えない決意が重要」と専門家は説く。

4・その他

◆「失敗は神様からの贈り物。成長するための最大のチャンス」〈トステイン・ロイブル：バスケット情報サイト GSL〉：世の偉人達は皆例外なく言う言葉である。問題は、このような「失敗観」を指導者が持たせられるか。選手がそう思えば、挑戦、努力は続く。「もうだめだ！」が「まだだめだ！」となる。